

1 いすみ鉄道の現状について

(1) いすみ鉄道の概要

- いすみ鉄道は、いすみ市（大原駅）と大多喜町（上総中野駅）の間26.8 km結ぶ単線鉄道で、通学、通院等が主な生活路線である。
- 特定地方交通線に指定された国鉄木原線を存続するため、千葉県及び地元自治体を主な出資者とする第三セクター鉄道として、昭和63年3月24日に営業を開始した。
- 輸送人員は、モータリゼーションの進展や少子高齢化などにより、昭和63年度の112万人から平成17年度は45万人と4割にまで減少している。
- 経営状況は、開業以来経常赤字が続いており、経営改善計画に沿って改善を進めているものの、平成17年度においても145百万円の赤字の状況にある。
- 沿線自治体及び千葉県は、いすみ鉄道の経営の安定や運行の確保を図るため、いすみ鉄道に対して基金から毎年度欠損補助を行っている。
- 今後、車両更新等の多額の設備投資が必要となることや欠損補助を行っている基金の枯渇が見込まれる。

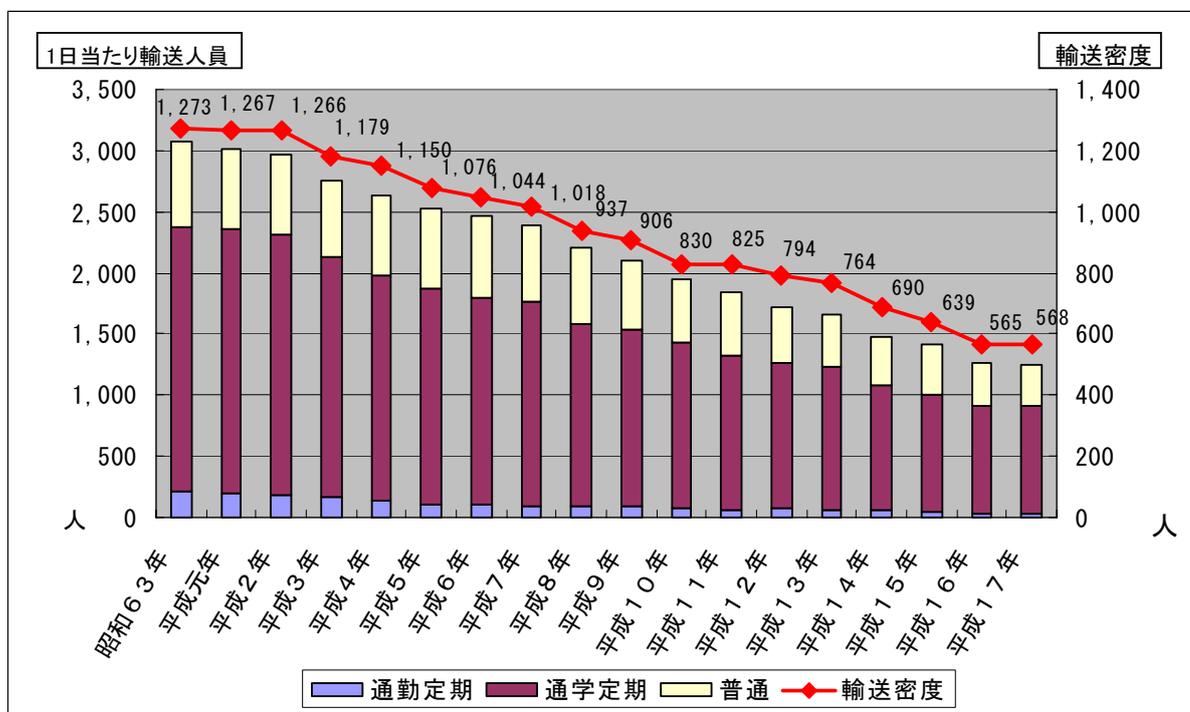
□ いすみ鉄道の経緯

大正元年 12月	県営人車軌道線 大原・大多喜間開通
10年	夷隅軌道株式会社に譲渡
昭和2年	国鉄、夷隅軌道株式会社を買収 改良工事着手
5年 4月	木原線 大原・大多喜間が開通 木更津まで計画
8年 8月	大多喜・総元間が延長開通
9年 8月	総元・上総中野間が延長開通 木更津との接続断念
54年 12月	「日本国有鉄道の再建につて」閣議了解 日量、2,000人未満の路線の廃止とバス、第3セクターへの転換決定 木原線該当 木原線存続運動
55年 5月	地元1市5町で国鉄木原線対策協議会を設置 木原線乗車運動を実施
56年 12月	木原線特定地方交通線対策協議会設置
61年 11月	木原線特定地方交通線対策協議会第11回会議において木原線の第3セクター方式での存続が承認
62年 7月	いすみ鉄道株式会社設立
63年 3月	23日 JR木原線廃止 24日 いすみ鉄道営業開始

(2) 輸送人員の推移

○平成17年度の輸送人員は45万3千人と、開業した昭和63年度の112万人の40%にまで減少している。
 ○利用客の70%は、大多喜高校などに通学する通学定期客となっている。
 ○一方、通勤定期客は2%と極端に低い利用率となっている。
 ○輸送密度は、開業時の1,273人/日から568人/日にまで減少している。
 ○減少の理由は、マイカー利用の増大や沿線人口の減少及び少子化が大きな要因となっている。

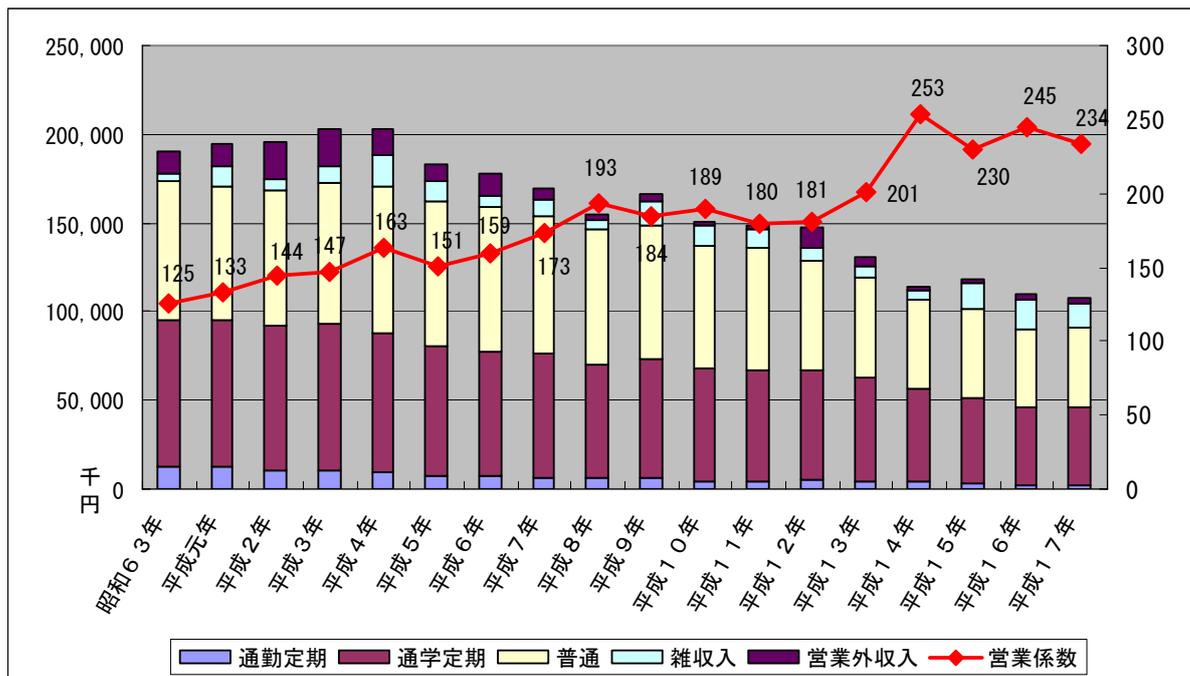
□ 輸送人員等の推移 (1日当たり輸送人員)



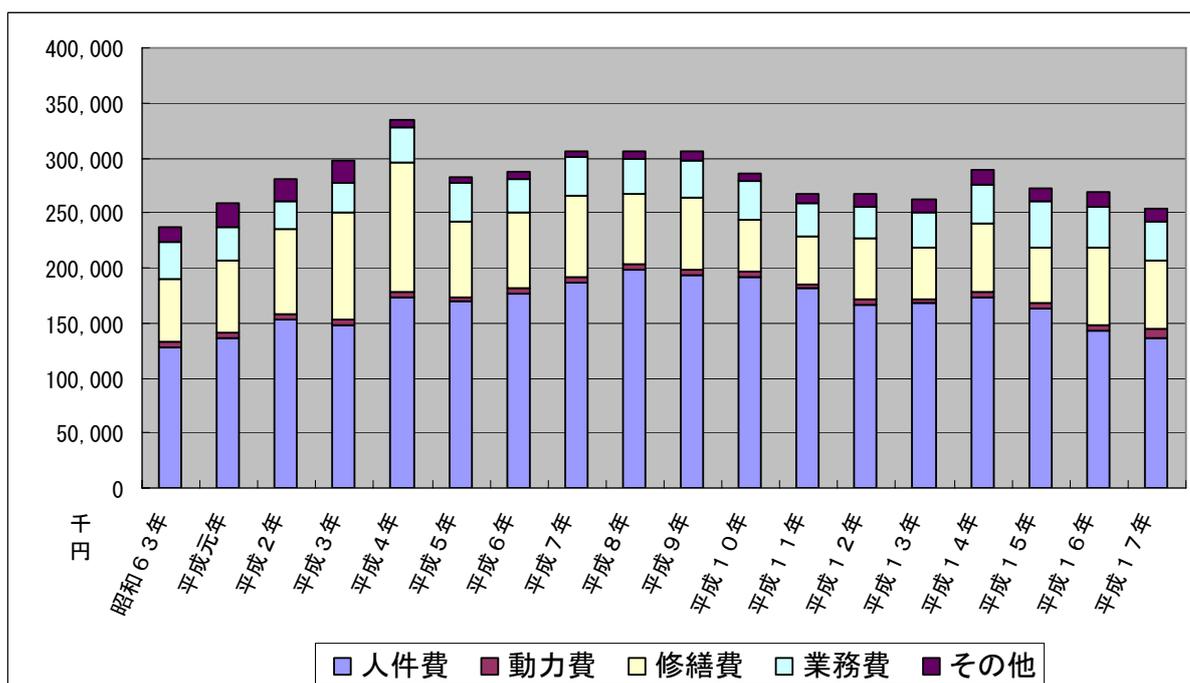
(3) 経営状況

- 平成17年度の営業収入は、昭和63年度の開業時の5割にとどまっている。
- 平成17年度の経常損失は145百万円で、開業以来経常赤字が続いている。
- 毎年度の欠損については、基金から補てんしている。
- 営業係数は、昭和63年度の125から、平成17年度は234と大幅に悪化している。

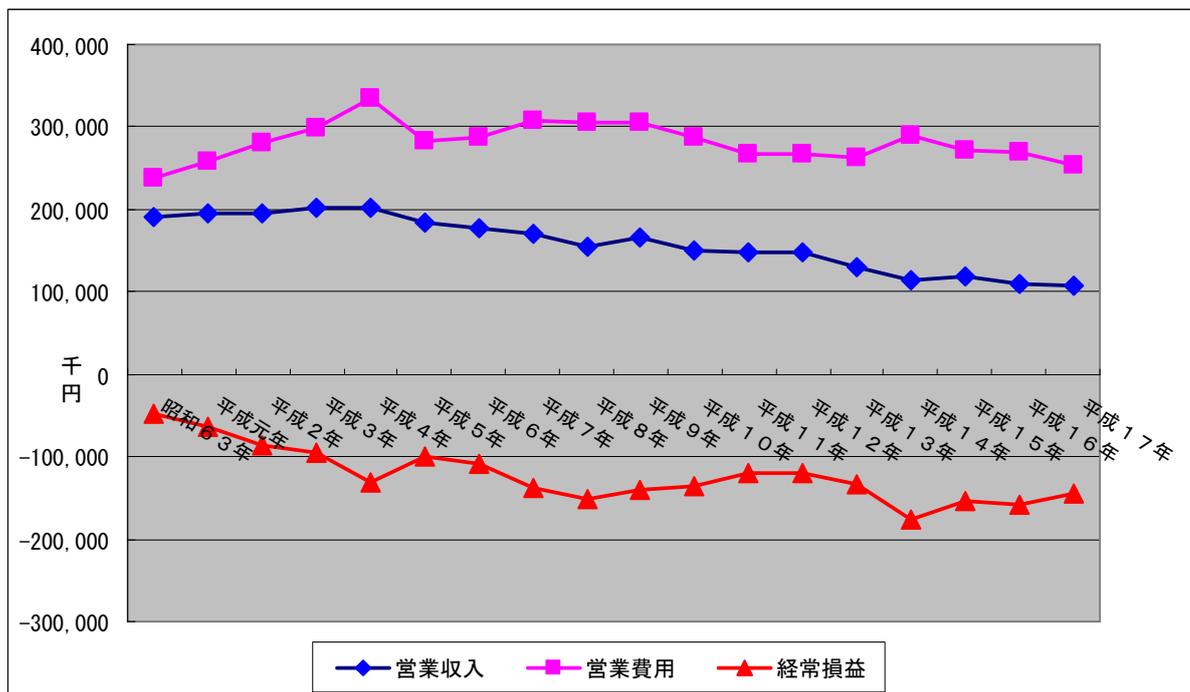
□ 営業収入の推移



□ 営業費用の推移



□ 営業収支の推移



(4) サービス水準等について

- 車両導入から18年経過し老朽化が進んでいる。同時期に導入した他の第3セクター鉄道では、車両の更新を実施済み。
- 運行本数は、平成18年10月のダイヤ改正により上下5本増便し、大原駅～大多喜駅間上下32本　大多喜駅～上総中野駅間上下28本。
- 運賃は、キロ当たり23.1円となっている。
- 運行時間は、16時間54分となっている。

□ 営業概要

ア 概要

- ①営業キロ 26.8km
- ②駅数 13駅
- ③車両 7両 ※うち1両休止中、6両リニューアル工事(H16～H18)
- ④表定速度 34.3km/h

イ 運行本数

- 下り 大原→大多喜 16本　大多喜→上総中野 14本
 上り 大原←大多喜 16本　大多喜←上総中野 14本
 ※ 平成18年10月1日ダイヤ改正 5本増便

ウ 運賃

①普通運賃

3キロまで	3キロ超6キロまで	6キロ超15キロまで	15キロ超27キロまで
170円	240円	3キロごと60円加算	3キロごと50円加算

※ 大原駅～大多喜駅 470円　大原駅～上総中野駅 620円

② 定期旅客運賃 (1ヶ月)

- ・通勤定期 普通運賃×60×0.67
- ・通学定期 普通運賃×60×0.4

エ 営業時間

大原駅		大多喜駅			上総中野駅	
	下り		上り	下り		上り
始発	6:18	始発	5:37	5:38	始発	6:04
終発	21:07	終発	19:54	19:55	終発	20:22
終着	20:22	終着	20:41	21:33	終着	20:15

オ 所要時間

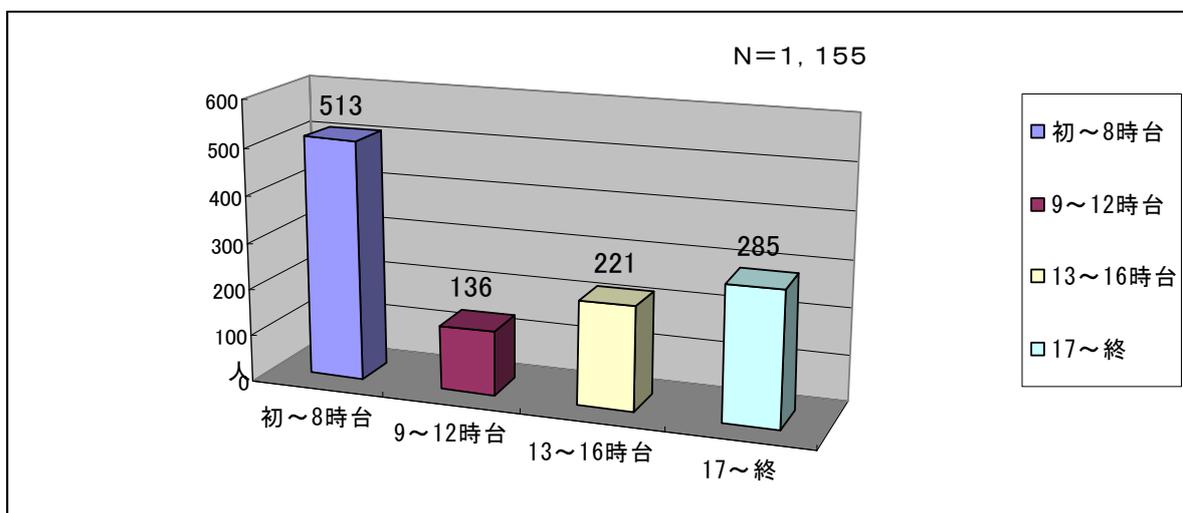
大原駅～大多喜駅 30分　大多喜駅～上総中野駅 25分

(5) いすみ鉄道の役割

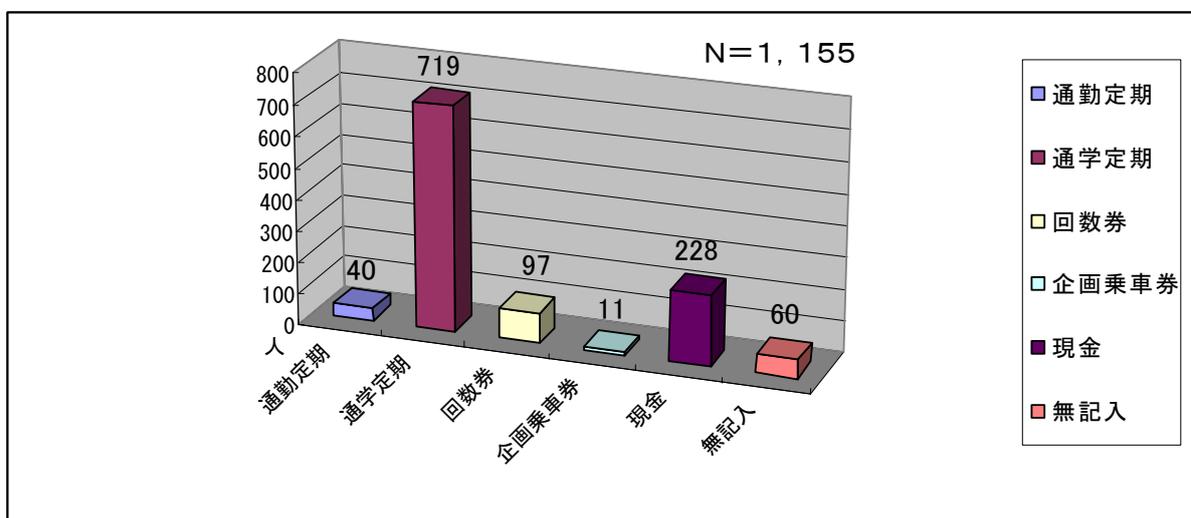
- いすみ鉄道は、いすみ市の大原駅と大多喜町の上総中野駅を結び、夷隅地域の基幹的な公共交通機関として地域振興等の役割を担っている。
- 特に、中学・高校生の通学や高齢者の通院など、他に交通手段を持たない住民の重要な交通手段となっている。
- いすみ鉄道は、大原駅でJR外房線と、上総中野駅で小湊鐵道と連絡し、JR内房線の五井駅から房総半島を横断する「房総横断鉄道」としての役割も担っている。
- また、沿線での観光客の誘致の取り組みにより、鉄道を利用する観光客が増加するなど、「観光鉄道」としての役割も期待される。

□ 利用実態 (駅間OD調査 平成18年7月13日実施)

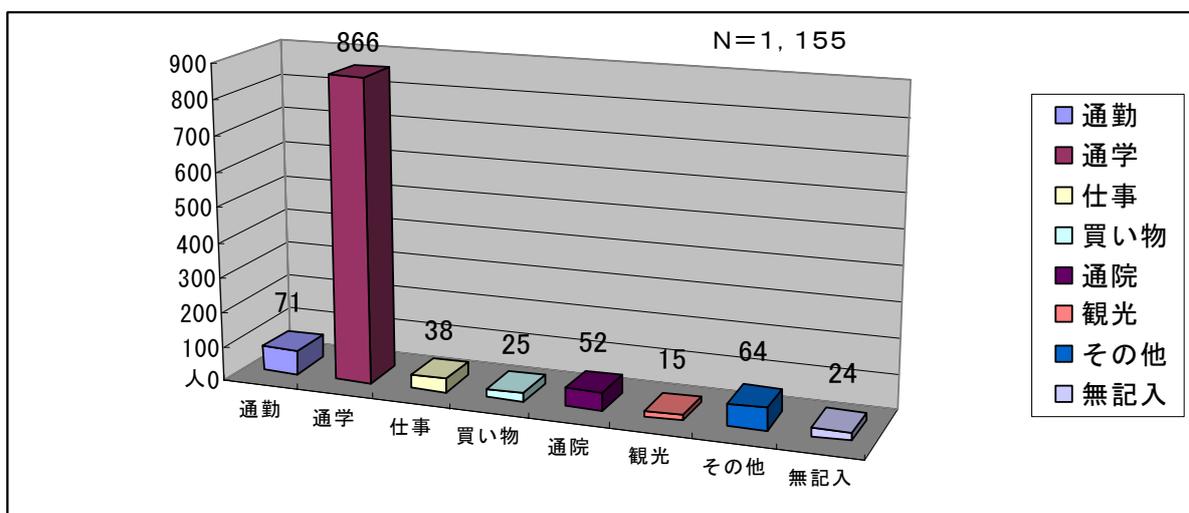
① 時間帯別利用状況



② 券種別利用状況



③ 目的別利用状況



□ 房総横断鉄道活性化協議会の取組み

ア 設置 平成17年3月

イ 目的

いすみ鉄道及び小湊鐵道の活性化を図るため、観光による地域の活性化や鉄道利用の促進方策の検討や事業の実施を行う。

ウ 構成員

日本民営鉄道協会、千葉県観光協会、小湊鐵道、いすみ鉄道、JR東日本千葉支社、市原市、大多喜町、いすみ市、国土交通省関東運輸局、千葉運輸支局、千葉県

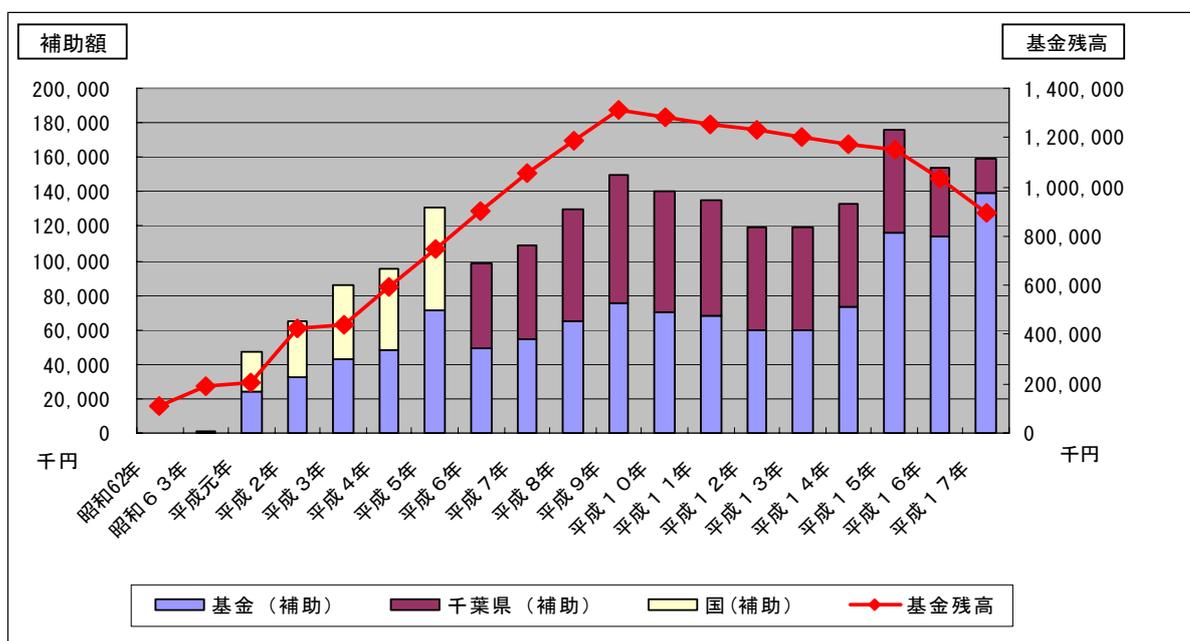
エ 実施事業

- ・ 企画旅行の実施
- ・ 旅行記者クラブ等での情報発信
- ・ 観光パンフレット等の作成・配布
- ・ 企画乗車券等の検討

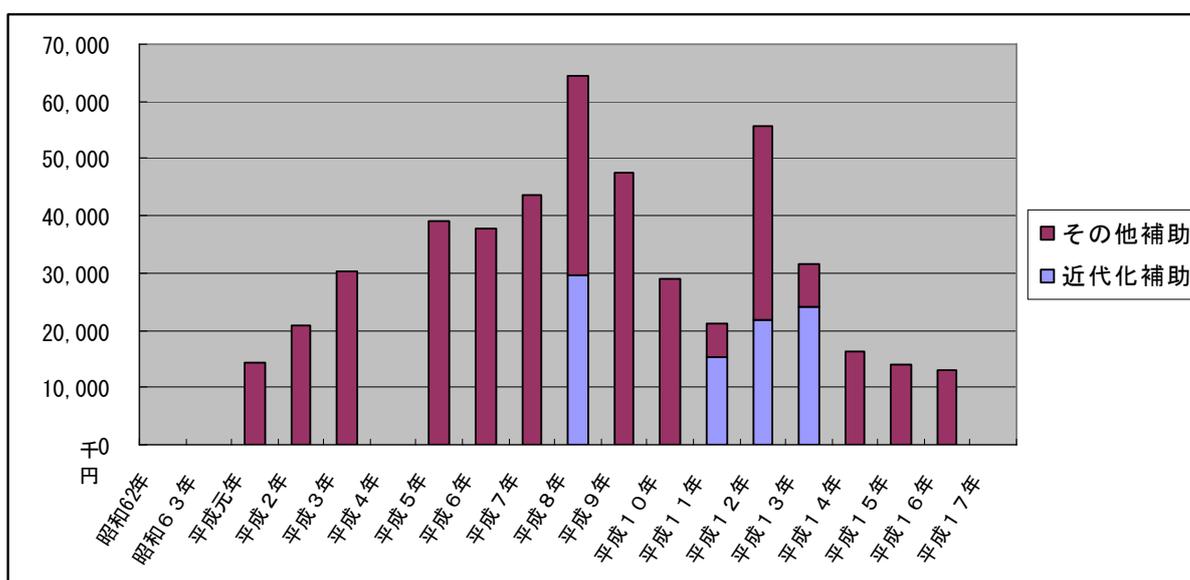
(6) 基金及び補助金の状況

- 大多喜町鉄道経営対策事業基金の残高は、895百万円となっている。
(平成17年度末現在)
- いすみ鉄道に対して、経営の安定や運行の確保を図るための欠損補助や設備整備を図るための鉄道近代化設備整備費補助、踏切保安設備整備費補助を行ってきた。
- 補助額は、平成17年度までに25億円となっている。

□ 基金の状況



□ 補助金の状況



(7) 他の第三セクター鉄道等との比較

○厳しい経営状況にある地方鉄道、特に第三セクター鉄道の中で比較しても、いすみ鉄道は厳しい経営状況にある。

□ 第三セクター鉄道との比較

第三セクター鉄道等協議会加盟39社

指 標	数 値	順 位	平均値	備 考
営業キロ	26.8 km	27	51.5 km	
経常損益	△159 百万円	31	△58 百万円	16年度 黒字3社
営業係数	245	36	143	16年度
輸送人員	459 千人	30	1,444 千人	16年度
輸送密度	565 人	31	1,338 人	16年度
基金残高	1,035 百万円	3	464 百万円	16年度末

第三セクター鉄道等協議会編「第三セクター鉄道の再生への取り組み」より

□ 地方鉄道89社との比較

指 標	数 値	順 位	平均値	備 考
財務 営業収益／費用	42%	84		15年度
居住人口 ヲッシュ	383.9 人／	81	1,984 人／	12年度
職員1人当り輸送人員	16.6 千人	74		15年度
職員1人当り運輸収入	3,408.0 千円	80		15年度

(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構編「地方鉄道の活性化に向けて」より

2 いすみ鉄道沿線地域の概要について

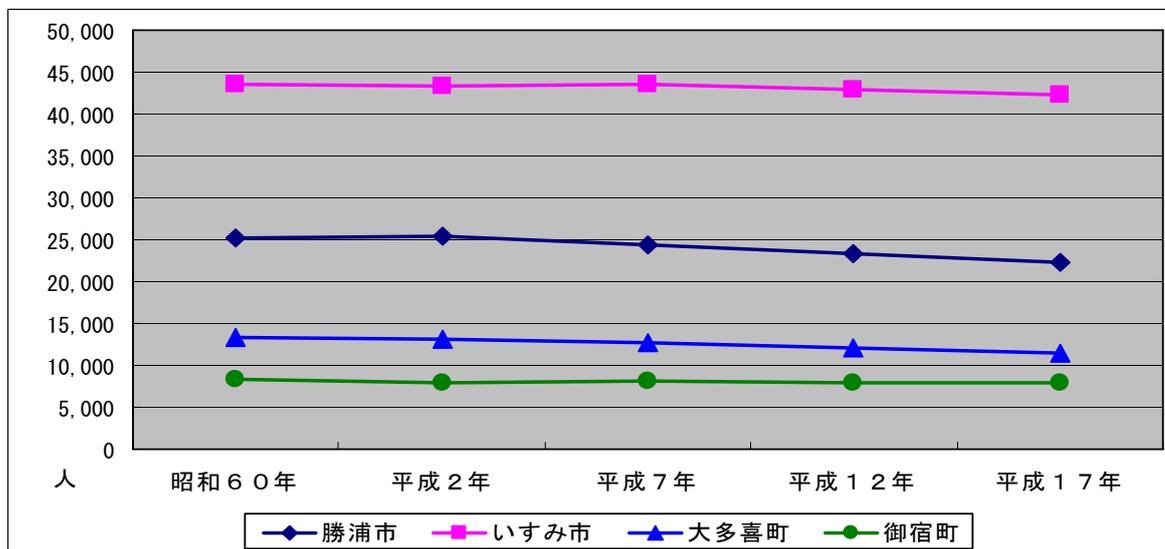
(1) 人口

○夷隅地域の人口は、昭和60年からの20年間に、全自治体で減少している。
 特に、勝浦市、大多喜町で10%以上の減少となっている。

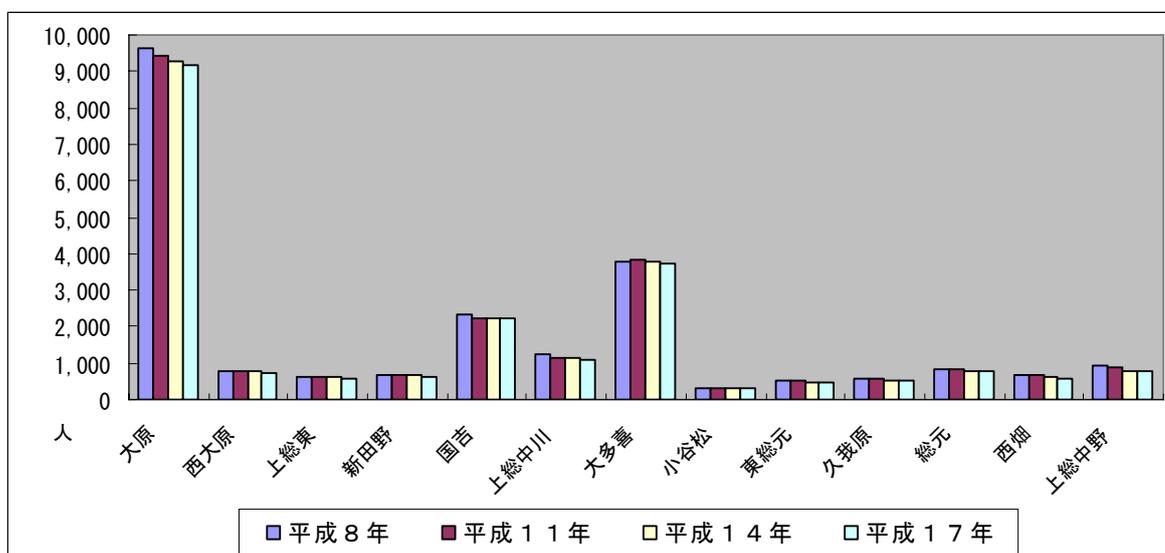
○駅勢圏人口も、全駅で減少しており、平成8年からの10年で6%の減少となっている。

○夷隅地域の将来推計人口は、全自治体で減少すると推計している。
 平成37年の推計人口は、平成17年と比較して13.5%減少する見込み。
 特に14歳以下の人口は、26.7%と大きく減少する見込み。

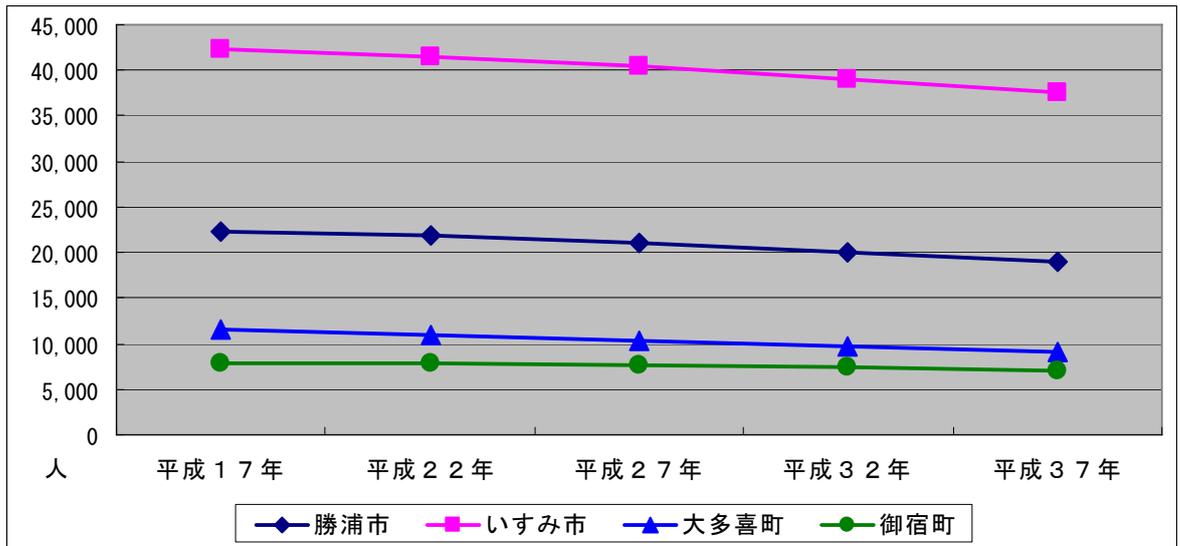
□ 夷隅地域の人口の推移 (国勢調査)



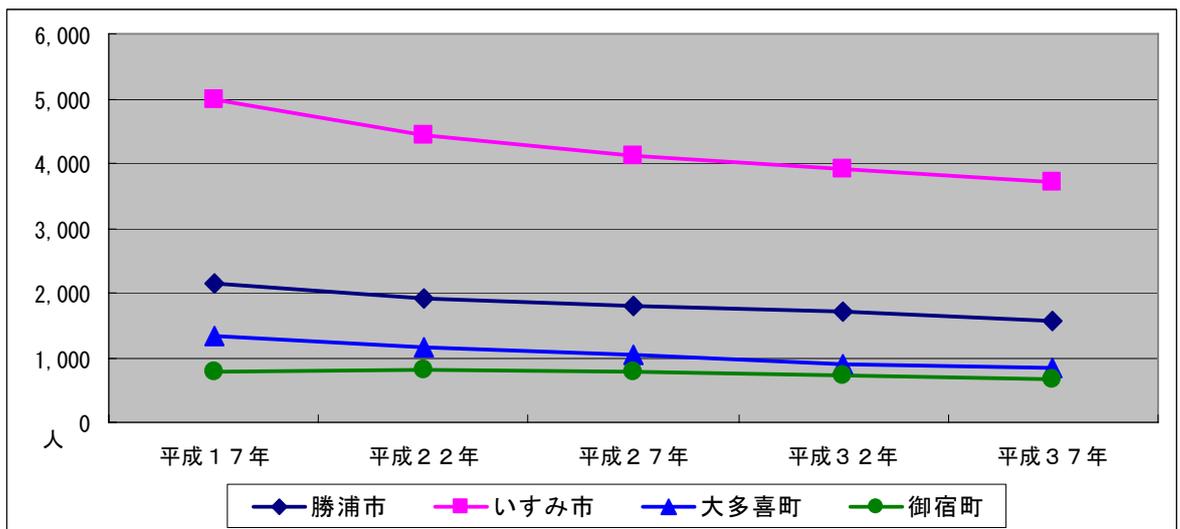
□ 駅勢圏人口の推移 (駅から1.5kmの範囲)



□ 夷隅地域の将来推計人口（総数）



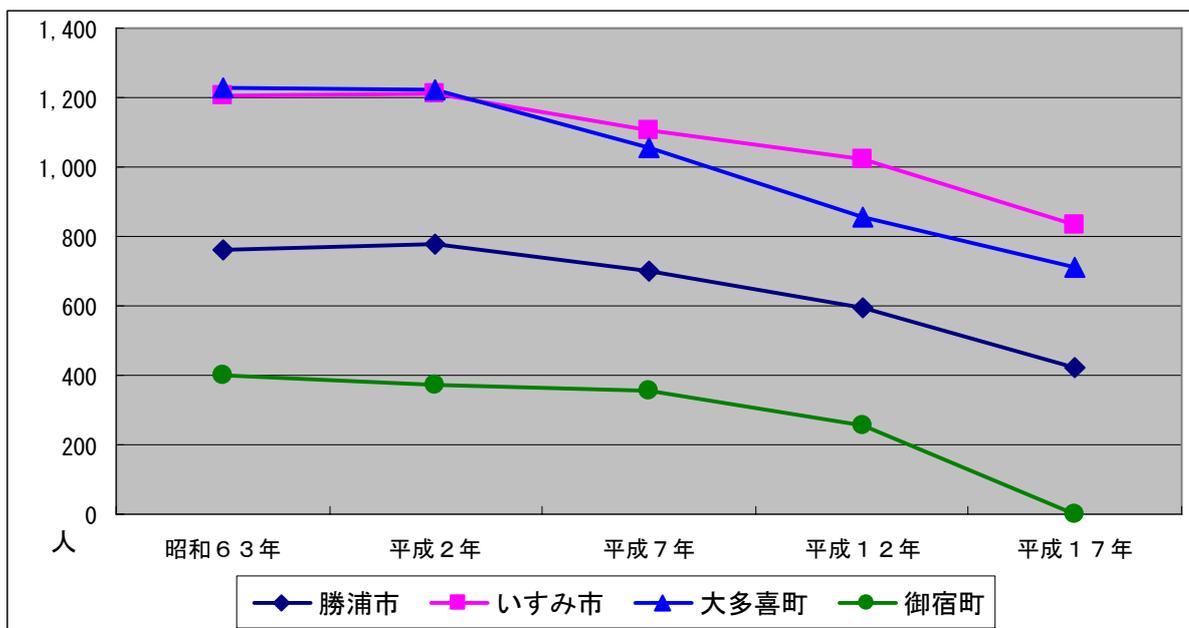
□ 夷隅地域の将来推計人口（14歳以下）



(2) 夷隅地域の高等学校数及び学生数の推移

○夷隅地域の高校数は、開業時(昭和63年)の6校から4校に減少している。
 ○生徒数は、開業時の3,590人から1,967人と45%まで減少している。

□ 高等学校数及び生徒数の推移

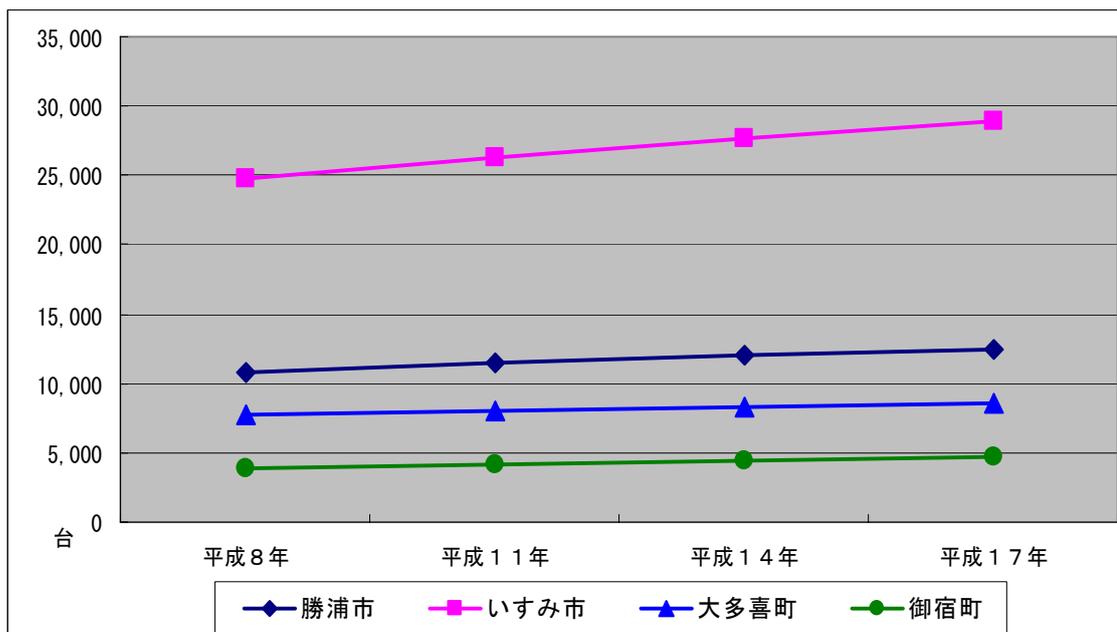


計(校)	6	6	6	6	4
勝浦市	1	1	1	1	1
いすみ市	2	2	2	2	2
大多喜町	2	2	2	2	1
御宿町	1	1	1	1	—

(3) 夷隅地域の自動車保有台数の推移

○夷隅地域の自動車保有台数は、5万5千台弱で、平成8年からの10年間で16%増加している。
○世帯別の保有台数では、大多喜町（2.34台）、いすみ市（2.01台）が高くなっている。

□ 自動車保有台数の推移



(4) 夷隅地域への観光客入込数の推移

- 夷隅地域への平成17年の観光客の入込客数は、3,872千人。
- 市町村別では、勝浦市と大多喜町で70%を占めている。
- 過去5年間の入込客数では、大多喜町が唯一増加している。
- 県内で、平成17年に入込客数が減少したのは、長生地域と夷隅地域となっている。
- 特に、夷隅地域は、県内で唯一5年連続して入込客数が減少している。

□ 夷隅地域の観光客入込客数

